

資料 3 4

「男女間における暴力に関する調査」結果について（内閣府）

平成 18 年 4 月 14 日

内閣府男女共同参画局では、男女間における暴力に関する実態把握のため、平成 17 年 11 月から 12 月にかけて、全国 20 歳以上の男女 4,500 人を対象に無作為抽出によるアンケート調査を実施した。2,888 人（女性 1,578 人、男性 1,310 人）から回答があり、有効回収率は 64.2%だった。調査結果の概要は以下のとおりである。

調査結果のポイント

- 1 配偶者からの被害経験～女性の 11%、男性の 3%が「何度もあった」と回答
配偶者（事実婚や別居中の夫婦も含む）から、“身体に対する暴行を受けた”人は女性 26.7%、男性 13.8%、“精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた”人は女性 16.1%、男性 8.1%、“いやがっているのに性的な行為を強要された”人は女性 15.2%、男性 3.4%。
“身体的暴行”“心理的攻撃”“性的強要”のいずれかを 1 つでも受けたことが『何度もあった』という人は、女性 10.6%、男性 2.6%となっている。
この 5 年以内の配偶者からの被害について相談先を聞いたところ、「友人・知人に相談した」と「家族や親戚に相談した」はいずれも女性で約 3 割となっているが、男性では 1 割前後となっている。それ以外の項目はいずれも 1～3%程度。「どこ（だれ）にも相談しなかった」は女性 46.9%、男性 84.4%となっている。
相談しなかった理由としては、「相談するほどのことではないと思ったから」（女性 45.2%、男性 69.7%）が最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」（同 39.3%、44.7%）、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」（同 29.8%、15.8%）が多くなっている。
これらの行為を初めて受けた時期を聞いたところ、「結婚（同居）してから」という人が女性 56.6%、男性 58.2%で最も多く、以下「育児中」（女性 9.9%、男性 7.7%）、「交際中」（同 7.7%、5.5%）となっている。また、女性の 3.1%は、「妊娠中」と答えている。
これらの行為について、子どもが知っていたかどうかを聞いたところ、約 3 割が「子どもは知っていた」と答えている（女性 31.9%、男性 32.4%）。また、このことが子どもの心身に影響を与えたと思う人は 7 割近くとなっている（同 66.9%、67.8%）。

2 交際相手からの被害経験

～女性の14%、男性の5%に被害経験。特に20代・30代の女性に被害が多い10歳代から20歳代のときの交際相手（後に配偶者となった相手以外。以下、「交際相手」という。）から、“身体に対する暴行を受けた”人は女性8.7%、男性2.9%、“精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた”人は女性7.2%、男性3.1%、“いやがっているのに性的な行為を強要された”人は女性6.2%、男性1.2%。

交際相手から“身体的暴行”“心理的攻撃”“性的強要”のいずれかをされたことが「あった」という人は女性13.5%、男性5.2%となっている。中でも、女性の20代で22.8%、30代で18.7%と、特に高くなっている。

交際相手からの被害についての相談先を聞いたところ、「友人・知人に相談した」が女性では53.4%と過半数で、次いで「家族や親戚に相談した」が13.6%となっているほかは、いずれも1～3%程度。「どこ（だれ）にも相談しなかった」は女性39.0%、男性74.3%となっている。

相談しなかった理由としては、「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が多くなっている。

3 異性から無理やりに性交された経験（女性のみ）

～被害経験は7.2%。若年・低年齢時の被害が多い
これまでに異性から無理やりに性交された経験を聞いたところ、「1回あった」という人が4.0%、「2回以上あった」人が3.2%で、被害経験のある人は7.2%。加害者との面識の有無を聞いたところ、3人に2人は「よく知っている人」（66.7%）と答え、「顔見知り程度の人」（19.3%）という人は約2割で、『面識があった』人は9割近い。「まったく知らない人」（9.6%）という人は約1割である。

被害にあった時期としては、約8割が20歳代までに、4割強が19歳までに被害を受けている。その内訳は、「20歳代」が36.8%、「中学卒業から19歳まで」が23.7%となっており、「小学生のとき」（8.8%）、「小学校入学前」（5.3%）、「中学生のとき」（5.3%）など低年齢で被害を受けている人も2割程度いる。被害についての相談先としては、「友人・知人に相談した」が24.6%で最も多くあげられ、次いで「家族や親戚に相談した」が8.8%となっている。これに対して、「どこ（だれ）にも相談しなかった」人は6割を上回る（64.0%）。相談しなかった理由としては、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が39.7%で最も多く、次いで「そのことについて思い出したくなかったから」（32.9%）、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」（30.1%）が多くなっている。

4 男女間の暴力を防止するために必要なこと

男女間の暴力を防止するために必要だと考えることを聞いたところ、「家庭で

保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が約7割（女性69.6%、男性70.5%）で最も多くあげられ、以下「学校または大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う（女性59.9%、男性59.2%）」、「加害者への罰則を強化する」（女性59.4%、男性57.9%）、「暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピューターソフトなど）を取り締まる」（女性56.4%、男性50.5%）の順となっている。